

令和元年8月6日

## 令和元年度第2回アーバンデザインセミナー実績報告書

### (1) 開催日時

令和元年7月26日(金) 18時30分～20時

参加人数：20名

### (2) テーマ

シリーズ：食とまちづくり(第1回)

「食生活の未来と持続可能なまちづくり」

### (3) 話題提供者

田中浩子(立命館大学食マネジメント学部教授)

### (4) 話題の概要

#### ● 自己紹介

➤ 「栄養」と「経営」の2つの視点から「食生活」の課題を解決している。

#### ● 世界の議論

➤ ①たんぱく源が不足する。

→培養肉や昆虫食も生活の中に入ってくるのではないかな。

②移民や観光で、人の移動が加速する。

→食の世界地図が変わっていくのではないかな。

#### ● 日本の議論

➤ 食のアクセス問題

#### ● 食の未来

➤ 昭和前半はメーカー主導、昭和後半は流通主導、最近は生活者が選ぶ主導権を持っている。

➤ 自分たちで未来をつくるのが大切。確実に未来を知る方法は自分で未来を作ること。

#### ● 草津の状況

➤ 野菜の摂取量が少ない。

- 生活者の状況
  - 健康が大切ではあるが、それを一番に優先して時間を割けない現状。
  - 強制するのではなく、人々を自発的に望ましい方向に誘導する仕掛けや手法（nudge）が重要となる。
  
- 共通価値の創造
  - 人口が減る中で食生活を保つには、社会的課題と事業課題を同時に解決する必要がある。
  
- 食品にアクセスできるかどうかではない課題
  - 単に栄養を補給しているだけではない。
  - 皆で楽しく食べる、一人でゆっくり食べる、手軽に食べる、じっくり時間をかけて作るなど、それぞれの好みに合わせた食生活を保つにはどうしたら良いのか。
  - 食事・食生活はベネフィットの束である。
  
- 地域デザイナーの必要性
  - 地域の食を整えるために、市場にあるサービスを組み合わせる役割。
  - 行政側も流通側もそのような視点で考える事が必要なのではないか。
  - 主体者は私たち自身であり、私たちが欲しいものを皆で作っていく。

#### (5) 主な質疑応答

- 高齢になると免許証を返したりして、自由に食を楽しむ機会が減ってしまう。高齢者が食生活をどう楽しめばよいか。
  - 何か仕掛けがあると楽しめる。年齢に合わせたそれぞれの仕掛けが必要となる。
  
- 一人で過ごす人が孤食であることを感じなくてよいことがない。レストランもカップルや家族連れである。リビングやダイニングのような家のような空間がない。
  - まちのリビング、まちの中のお茶の間のような場所が必要ではないかと思う。
  
- 私たちは食べているものについてあまりにも知らない。
  - 例えばスウェーデンではオーガニックと言うと、人間のためではなく、地球のためという視点だった。考えていくべきことがあると思う。

- 地域デザイナーという方向性について具体的に教えてほしい。
  - コミュニティナースをもう少し大きくしたイメージ。栄養知識を持ちながらも、まちづくりや流通などの領域にも行ける存在。衣食住の中でも、食は一日三回と頻度が高いので、食中心のコミュニティをトータルに考えるのが良いのではないか。

## (6) まとめ

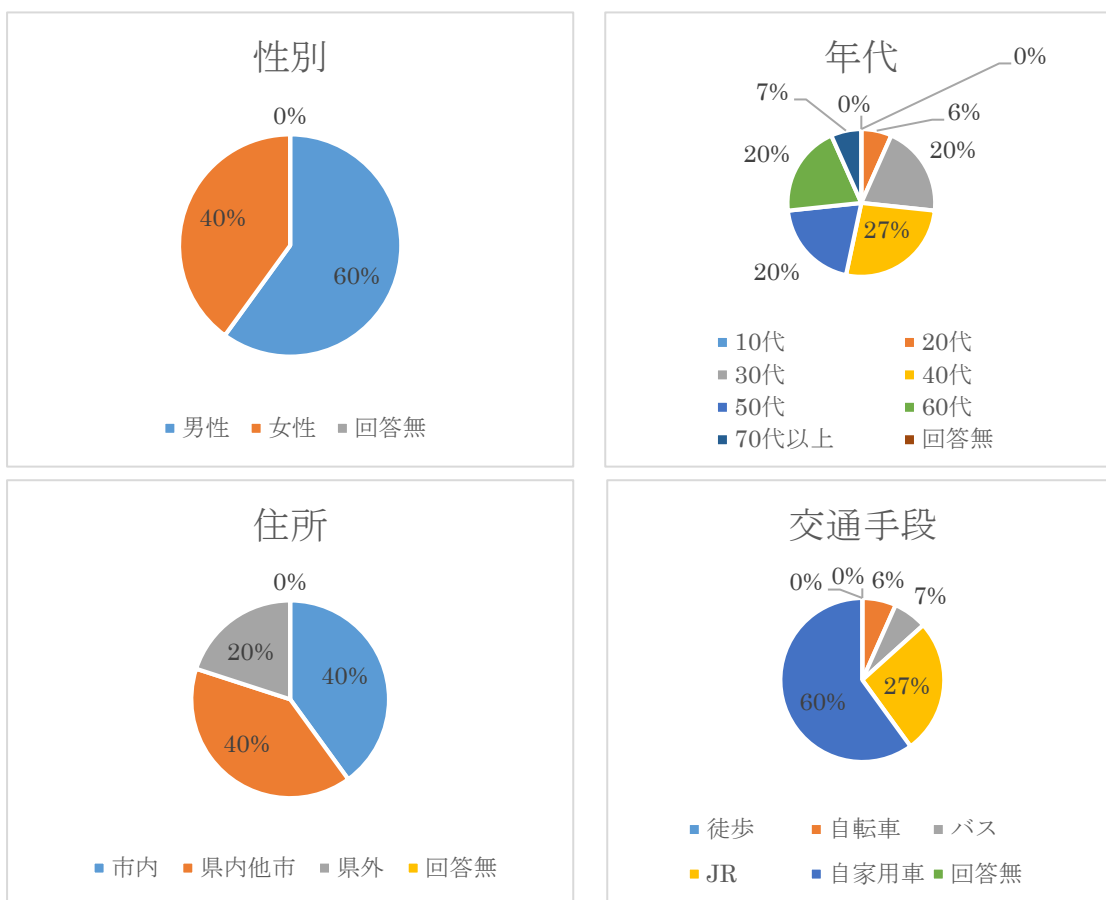
今回の講義では、食とまちづくりに関して、草津の事例も交えながら持続可能性について学んだ。単に食にアクセスするだけでなく、心豊かな食生活を送るために何が必要なのかを考える必要があり、一つの結論として地域デザイナーの可能性について理解した。

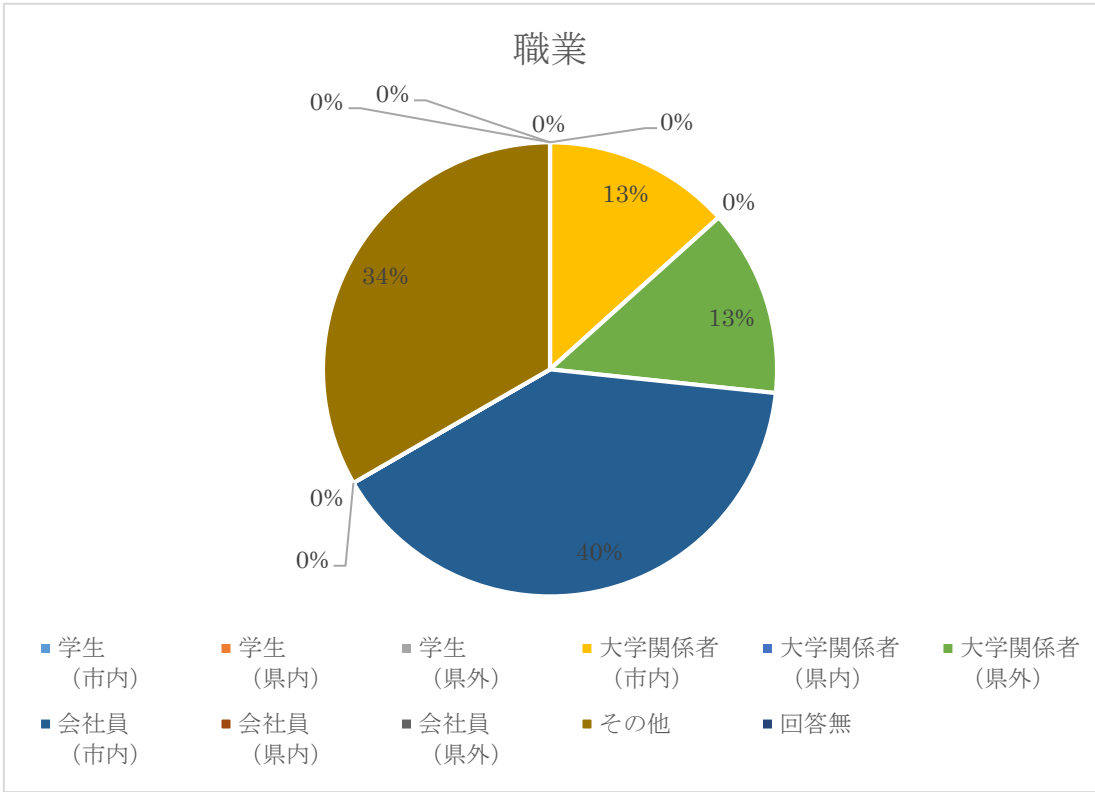
多角的な視点を得て、参加者それぞれが自分事として食について今後考えていくことが期待される。

## (7) アンケートまとめ

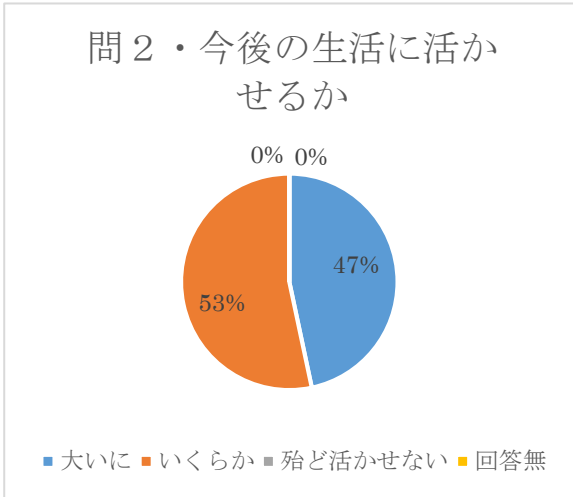
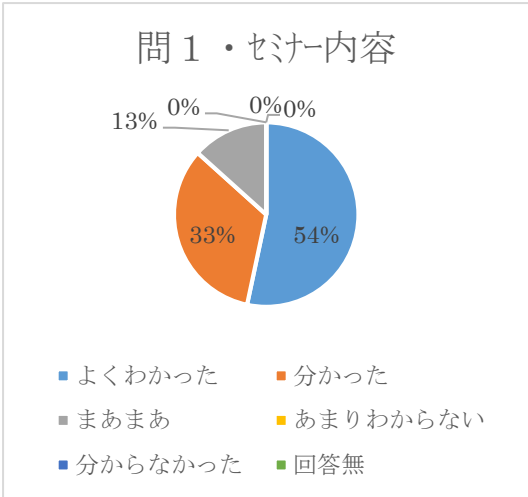
### ① 参加者属性

参加者20名のうち、アンケートに回答いただいた方は15名、回答率は75%だった。

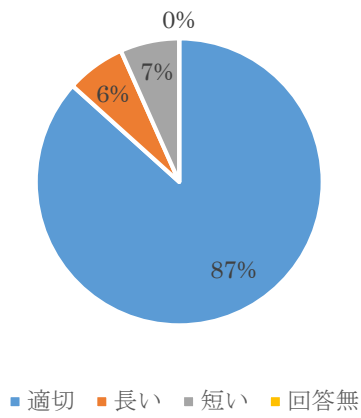




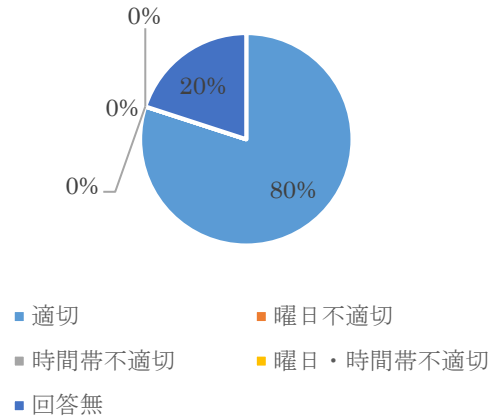
② 内容について



問3・セミナー時間帯



問4・曜日・時間帯



【自由記入欄回答】

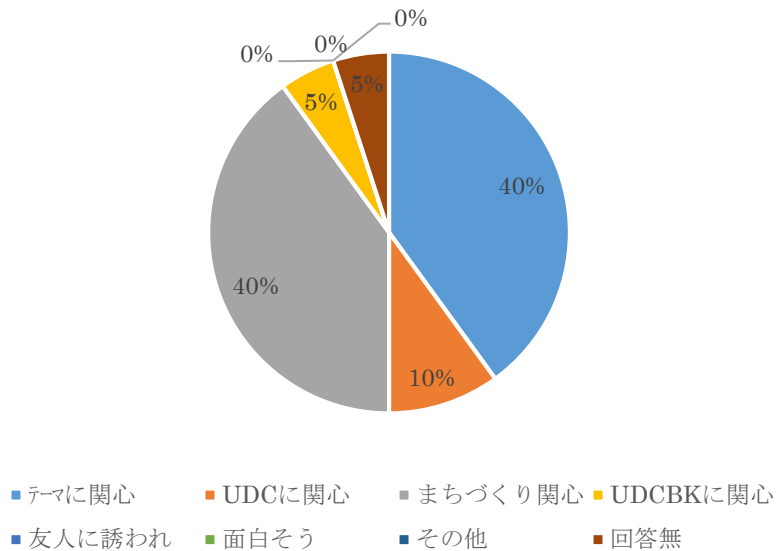
問3. 時間はどうでしたか。

- ・1時間が適切（50代男性）

問4. 開催曜日、開催時間は適切でしたか。

- ・平日の2時頃が適切（60代男性）

問5・参加動機



【自由記入欄回答】

問5. 今回参加した動機についてお聞かせください。それぞれに関心のあるテーマについて御自由に記載ください。

- ・地域のまちづくりも重要であるが小さな町内のまちづくりに着手していく予定.....  
若者は将来の町内を大変危惧している。議事録も残している（70代以上男性）
- ・20～30年先を見すえたまちづくり（60代男性）
- ・食や栄養、健康は「大切だ」とわかっているが、優先順位が下がりがち。栄養士の地位も、お医者さんと比べると低い現実。でも、私は栄養士ができること「食」ができることの可能性は大きいと思っています（20代女性）
- ・食の顧客接点と社会実学研究について興味深い（50代男性）

【自由記入欄回答】

問6. 今回、印象に残ったこととその理由をお聞かせください。

- ・人々の自発的な行動（意識）変容を促す仕掛け＝「ナッジ」の考え方は、食からのまちづくりだけでなく、あらゆる事業、啓発をしていく中で活かしていけると思いました。  
「何を食べるか」だけでなく、どうやって食べ物を手に入れているか？食事の環境？など、食生活にはあらゆる要素があることがわかりました（20代女性）
- ・「集いの館」・・・将来のまちづくり拠点の考え方に参考となる（60代男性）
- ・ナッジ（60代男性）
- ・食生活の今後の課題・重要性について、何となく、わかったが 具体的にどうすればと  
いうところが、全く想像できない。勉強していきたい（40代男性）
- ・今後、開催されるにあたり、セミナー受講者のターゲット（話題のレベル）を絞ることも考えるべきではないかと思いました（50代男性）
- ・「日常の食生活を軸にした地域がベスト」の考え方（50代男性）